



ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 寒い時期を健康で快適に過ごす。 好きな遊びを通して、保育者や友だちと関わる中で自分の気持ちを言葉で表現する。 衣服の着脱など身の回りのことを自分でしようとする。 	避難訓練 身体測定 節分 行事	朝の健康状態を丁寧に行い、体調の変化に気をつける。 長時間保育	家庭連携 <ul style="list-style-type: none"> インフルエンザや風邪が流行しやすい時期のため、保護者と体調の変化を伝えあい早めに対応する。 柔らかい素材や体に合ったサイズなど自分で着脱しやすい衣服をお願いする。 	自己評価 大きく体調を崩す児はおらず、暖かい日も多かったので園外散歩を楽しむことができた。話せる言葉も増え友だち同士で会話をしている姿が見られるようになり、時には上手く伝わらないこともあるが、関わり合う楽しさを知ることができている。身の回りのことは今まで保育者に依存していた児が自分でと言って取り組むようになった。個々に合った援助を心掛けたい。	
今月の内容(養護・教育)		環境構成		配慮事項		取り組みの状況と保育士の振り返り
<ul style="list-style-type: none"> 簡単な身の回りのことを自分でできるように声を掛け、必要な時は援助を行う。 保育者や友だちと手を繋いで歩き冬の自然を見つけ楽しむ。 簡単なルールのある遊び(むっくりくまさん、しっぽ取りゲーム)やごっこ遊びを一緒に楽しむ。 指先を使って鬼の面に目や口を貼ったりして楽しむ。 食具を正しく持ち、食器に手を添えて食べようとする。 		<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に合った言葉掛けをし必要な援助を行う。 天候により出掛ける場所を考え、冬の自然を自分で見つけられるようさりげなく誘導する。 保育者も一緒に遊びに誘う。 節分や鬼の絵本や手遊びなど、準備をする。 食事の際の椅子の位置や食器の位置を整え食べやすい環境を作る。 		<ul style="list-style-type: none"> 子どもが援助を求めてきたときには一緒に言い、できた喜びを感じられるようにする。 冬の自然に興味を持てるような言葉がけをしていく。 友だちと遊ぶ中でトラブルが起きた時は保育者が仲立ちをし見守る。 鬼のお面作りでは、のりの使い方を丁寧に知らせ、手の汚れが気になる児には手拭きを用意し少しずつ感触になれるようにする。 一人一人の様子に合わせて、正しい食具の持ち方を知らせていく。 		一人一人のできるポイントをしっかりととらえ、意欲が持てるような声掛けや対応を工夫し、できた時にはおおいに褒め自信に繋げている。暖かい日が多く冬の自然に触れる機会は少なかったが、追いかけてこをして活発に身体を動かして遊んだり、子どもたちの大好きな電車を見に行くことができた。制作の際は糊の使い方を丁寧に知らせながら少人数で行った。無理強いせず少しずつ糊の感触に慣れるようにした。給食は自分で食べようとする姿を大切に、食事をする姿勢や様子に合わせ食具の正しい持ち方を知らせ援助した。